

災害時の学校の役割について

岩手県教育委員会事務局
中部教育事務所

菅原 良昭

(前岩手県立山田高等学校事務長)

岩手県山田町



地震・大津波・火災

平成23年3月11日(金)

14:46 地震発生(M9.0 山田町震度5弱)

14:49 大津波警報発令

15:22 山田湾に津波第一波到達 4~5m
(後に最大10m~15mの津波)

15:30 山田町内数ヶ所で火災発生を確認
(翌日の昼まで延焼)

岩手県山田町の被災状況

- 死者 618人
 - 安否不明者数 153人
 - 被災家屋 3,367棟(全居宅の46.7%)
- (H24.4.2現在)

人口の変化

- 震災前 18,625人(H22国勢調査)
 - 震災後 16,454人(H24.6.1現在)
- Δ2,171人(Δ11.7%)

山田町織笠地区

山田高校



山田高等学校の被災状況

校舎等の施設

- 校舎の被害はなし
- 海岸の艇庫は大きな被害(内部は全壊)
(ボート等の備品は全て破損・流出)

生徒・職員の状況

- 生徒の死亡者 2人
- 自宅全壊等の被災生徒は約6割
- 住居を失った職員
6人

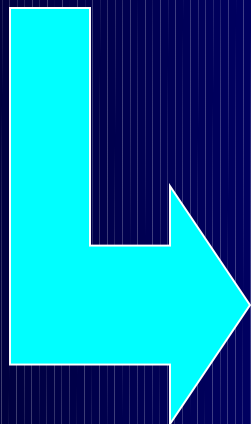






地震発生時の状況

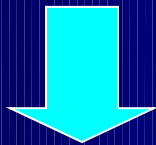
- 春季特別講習(2学年)の生徒
- 部活動中(体育館、校舎内)の生徒
グランド
艇庫(山田湾)
- 職員



大きな揺れに動揺、
適切な避難指示ができたか

避難誘導、状況把握

- 避難経路の確保（防火扉の開放ほか）
- 避難者誘導、確認
- 情報収集（ラジオ、携帯電話による映像）
- 校舎等の被害状況・津波被害の確認



今後の対応の検討

（生徒の帰宅困難、避難者の受入等）

町内最大の避難所に

- 夕方は、約300人の避難者



第1体育館を開放

- 夜、山田中学校より約1,000人が移動



第2体育館、格技場 開放

合計 1,300人の避難所に

(横になることができない状況)

頻発する余震、炎上する町中心部...

不安で、眠れない夜を過ごす

避難所の開設・運営上の課題

避難所を想定したマニュアルなし

- ・職員の役割分担

帰宅する者（自宅が被災・家族対応）

避難所対応に専念できる者

（3日目から生徒の安否確認も）

- ・職員間の共通理解

毎日、定時にミーティング（夕食後）

A 職員の対応(避難所)

- 避難者への衣食住の支援
- 避難者名簿作成
- 支援物資の配布計画
- 避難者スペースの調整、場所移動
- 避難所の配置見直し
- 山田町災害対策本部との調整

B 職員の対応(避難所外部)

- 駐車場、車両の整理
- トイレ用の水の運搬
- 負傷者の移送(へりから救護室)

- 支援物資の受入、搬入
- ごみの収集
- 清掃

徐々に避難者が
自発的に対応

事務室の緊急課題（水の確保）

1 飲料水.

受水槽からポリ容器へ確保.(飲料水、炊出し用)
(受水槽には約10tの水あり).

2 水洗トイレ用の水.

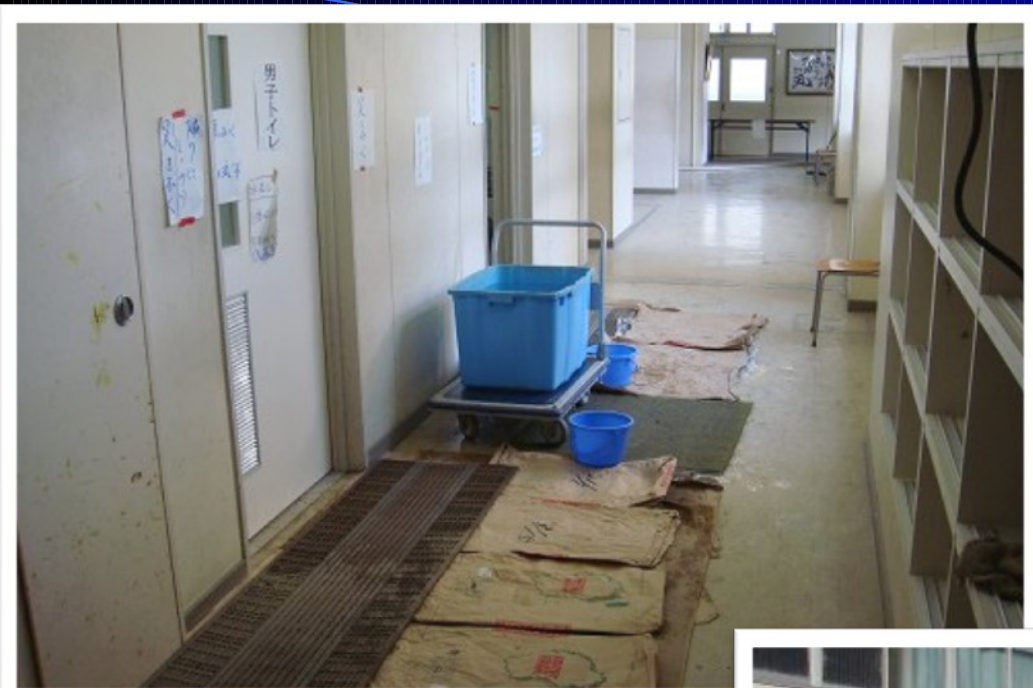
1,000人以上が使用する.

水量は膨大。くみ取り式トイレはなし。

翌日、近くの沢水をバケツでくみ上げ対応.

その後、鮭のふ化場から運搬.

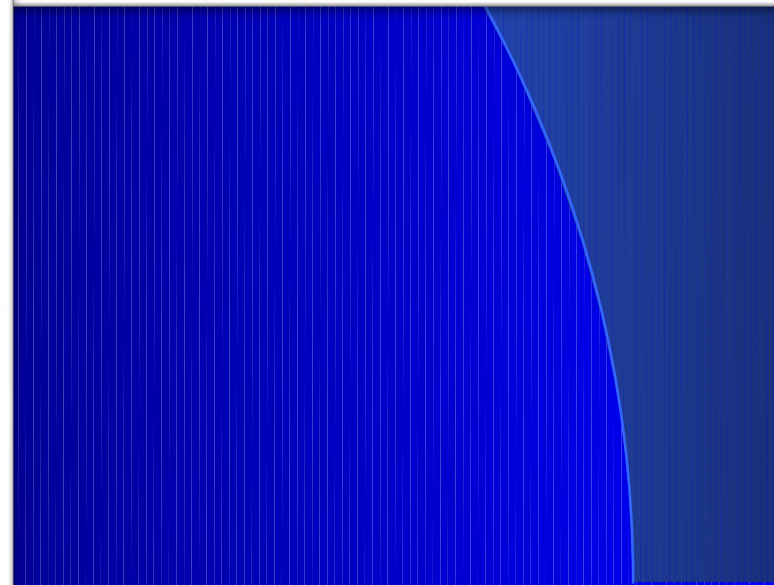
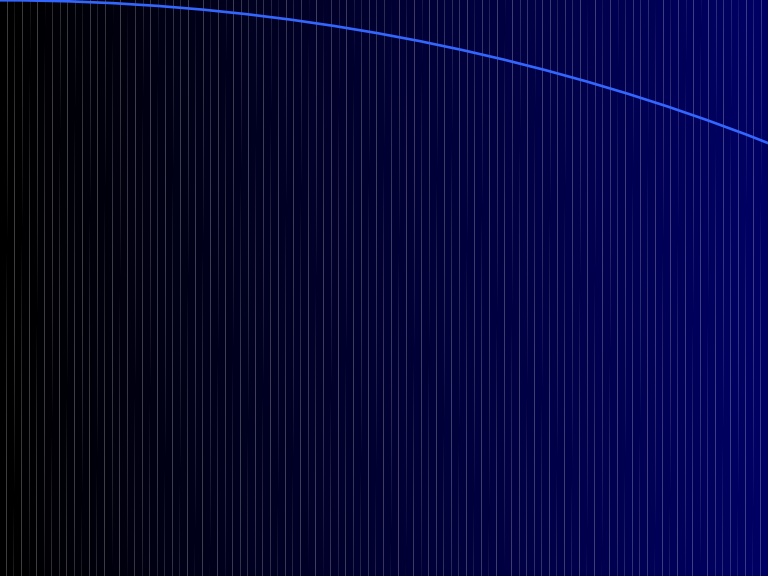
消火栓用受水槽の活用(給水車から補給)



トイレの水タンク
(常に水を補給)

仮設トイレ
(約1週間後
に設置)





グランド(駐車場)の状況



半分は駐車場
(半分はヘリポート)

自衛隊駐車場及び
宿営・炊事・風呂



避難所(第1体育館)



避難所(第2体育館・格技場)



＜第2体育館＞

- ・ カーテン無し
- ・ 換気は良好（寒い？）

＜格技場＞

- ・ 床は空手用マット
- ・ 暖房効率良いが換気悪い



避難者名簿

避難者名簿

3/16 9:07
現在

間違いがある場合
書き込んで
訂正して下さい！

食事の様子（1日2食）



支援物資(飲料)の配給



全国各地から支援物資

衣類(整理前)
(性別・サイズ別に)



食品(冷蔵庫なし)
保存に苦慮

長期的展望に立った避難所へ

- 1 地域コミュニティの維持
(隣近所がばらばらにならないように)
- 2 感染症対策(隔離できる部屋、スペース)
(インフルエンザ、ノロウィルス等)
- 3 高齢者、乳幼児等への配慮
(体育館でもプライバシーが確保できるように)

保健師等による巡回、保健指導の
円滑な実施が可能に(避難者の心の健康)

学校再開に向けた避難所運営

運営体制の変化

- ① 山田高校教職員、生徒
校長が避難所の責任者
- ② 山田町からの職員派遣(3日目)
避難所責任者は山田町職員となる
学校側は、施設管理者としての関わり
- ③ 避難者による自治会組織立ち上げ
避難者自らが運営、職員は補助的に

山田高校職員は、学校再開に向けた業務へ

学校再開へ（避難所との共存）

- 3月30日 終業式（校舎内 多目的教室）
- 4月27日 始業式
- 4月28日 入学式

校舎等の使用制限（避難所関連）

第1、第2体育館、格技場、グラウンド、1階教室、
調理実習室、化学実験室、保健室

- 宿日直対応（5月上旬まで、1名）
その後、非常勤職員で対応

ライフライン等の復旧状況

- 電気 3月15日14:30 (4日目)
- 水道 3月28日
- ガス 災害対策本部から優先的に補充
- 衛星携帯電話 3月15日設置
- 携帯電話 3月16日(NTTドコモ)
- ネットワーク回線 4月19日
- 電話・FAX 4月23日

避難者の推移

3月11日 1,300人

17日 800人(山田中学校生徒退去)

4月1日 550人

6月1日 300人 ⇒ 第2体育館使用可

8月1日 200人

15日 20人

8月31日 閉鎖(学校では町内最後)

全面復旧に向けた作業開始

避難所解消後の課題

- 1 避難所として使用した施設等の復旧
教室、体育館・・・清掃、消毒の実施
グラウンド、テニスコート・・・復旧工事
- 2 避難所に提供した物品の補充
購入、全国からの支援（寄附採納）
- 3 全国からの支援物資（残った物）
町の支援物資保管場所へ移動





災害(避難所)復旧の状況

- 体育館、校舎(清掃・消毒)・・・9月
- グランド・テニスコート・・・・・・・・9月～3月
- 艇庫復旧工事・・・・・・・・H24. 3月～7月
- ボート等の整備・・・・・・・・H24. 1月～3月

県外からの支援(山田高校)

●避難所

運営補助(静岡県、秋田県)

日赤医療チーム (兵庫県、徳島県)

保健師チーム (和歌山県)

自衛隊支援部隊 (北海道)

警察(常駐警備) (大阪府・埼玉県)

●学校

カウンセラー (佐賀県チーム)

避難所運営に関わって

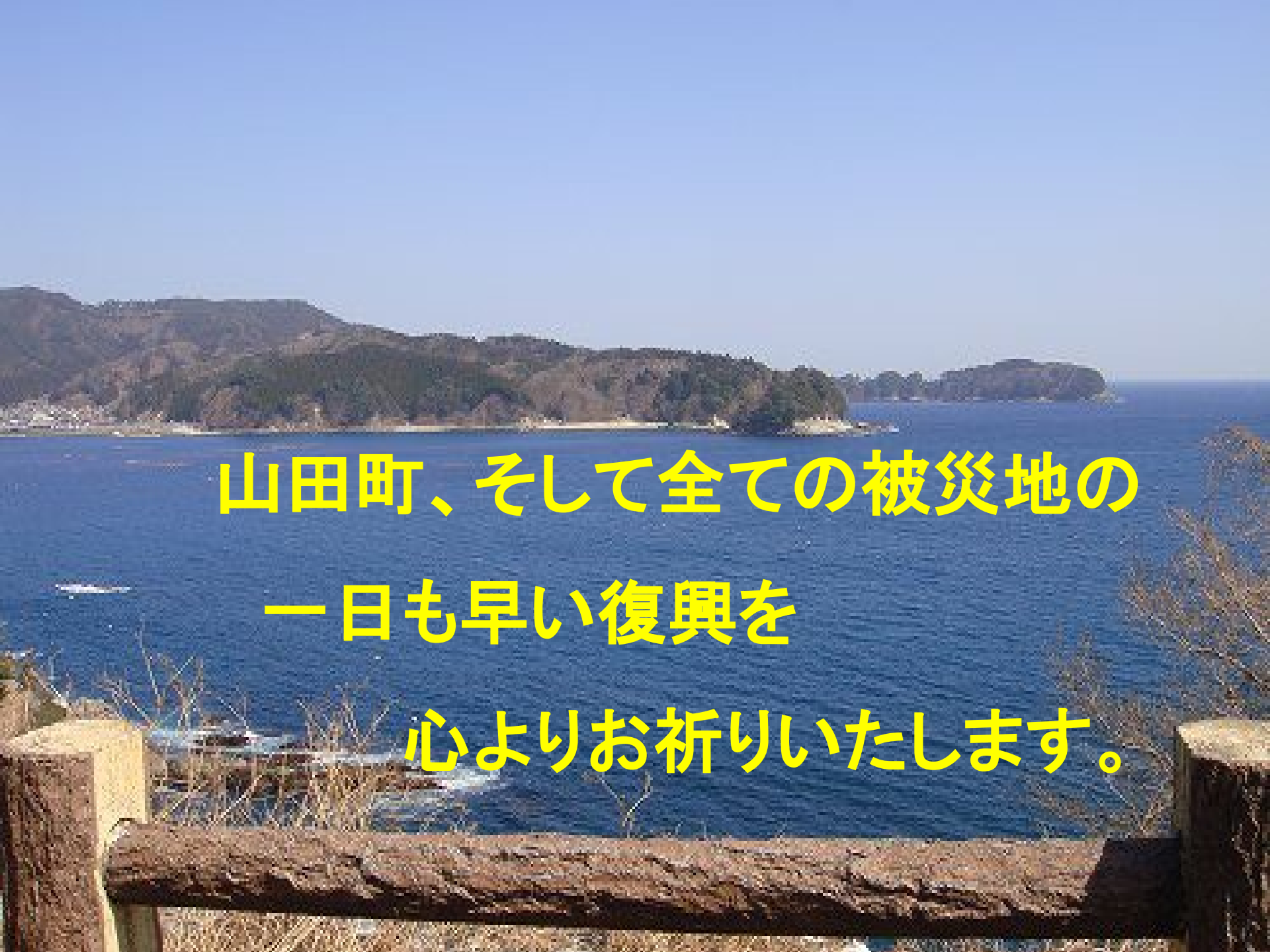
- 非常災害時には、どこでも避難所となる
- 住民にとって学校は安全な場所
- 避難者は、何でも無理が通る
- 平等のルール徹底すべし(混乱防止)
- 対外的窓口(マスコミ対応等)を一元化

地域の学校を目指して

避難所は、単に、避難者を受け入れる場所ではなく、被災した住民の心のよりどころとなる

- 
- ・日頃から、地域に根ざした学校経営
 - ・地域住民との良好な関係

地域に愛され、地域に貢献できる学校づくり



山田町、そして全ての被災地の
一日も早い復興を
心よりお祈りいたします。